

テーマ	部会でのご意見	対応の方向
都市空間の概念図	<ul style="list-style-type: none"> ● 図は対外的に札幌のまちがどうなっていくのかを端的に分かるものにしなければならない（小林部会長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2節の中で、将来の都市の姿を示す概念図を記載。
札幌型ライフスタイル	<ul style="list-style-type: none"> ● 利便性の高い地域での住まい方と、北海道らしいライフスタイルを享受できる住まい方と、多様なライフスタイルを支えることを「集約連携都市」の中で打ち出す（小林部会長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「札幌型の集約連携都市」の中で、札幌らしさを生かした都市づくりとして、冬期間の快適な暮らしの確保や北海道・札幌の魅力を発信するショーケース機能が集積した拠点の形成・育成、環境首都・札幌の推進などを打ち出す。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 「札幌型」ということであれば「冬に強い、歩いて暮らせるまちづくり」のような概念が必要（田村委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「札幌型」の概念の一つとして「積雪寒冷地の大都市にふさわしい都市空間」を掲げ、駅周辺施設等における快適な歩行空間の創出や、郊外での移動を支えるバスの利便性向上に向けた取組を行う。また、重点戦略「地域」においても除排雪の重要性について部会で指摘があり「地域の特性に応じ除排雪の推進」という項目を掲げる中で、想定される取組について、さらに検討していく。
郊外住宅地	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民などが自主的なまちづくり活動を行う地域に対しては行政も支援を行うなど、官民が連携したマネジメントが必要。（小林部会長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● これからの都市づくりには、行政主体の市街地整備から、市民・企業が主体となったまちづくり活動などの取り組みが重要である旨を記載した上で、地域の特性に合わせた課題解決への支援などを通じて地域マネジメントの推進を打ち出し、重点戦略「地域」においてもこれを位置づける。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 郊外住宅地においても、住宅専用だけではなく、一定の機能が複合した市街地として捉える視点も必要。（小林部会長） ● 人口が減少していく郊外では、空き地をみどりに戻すなどの手当を考えることが必要であり、その際には、質の高いみどりに置き換えていくことや、維持管理をどのようにするのかも考えなくてはならない。（小林部会長） ● 田園住宅地など、他都市とは違う集約型の姿を考えていく必要がある（小林部会長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 郊外住宅地については、地域の特性に応じた多様なニーズや課題に対応していくことや、札幌らしいゆとりある環境を生かした暮らしを支えることを今後の都市づくりに必要な視点として掲げ、既存施設の有効活用や土地利用計画制度の柔軟な運用など、取組の方向性についての検討を進める。

第6回都市構造部会 主なご意見と対応の方向

テーマ	部会でのご意見	対応の方向
都心・地域の拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市間競争に打ち勝つため、また、民間の投資が生まれやすい場を生み出す上でも都心のまちづくりが重要となる（小林部会長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3節で、都心のまちづくりを一つの項目として掲げ、民間の投資も引き出す視点の方向性を記載する。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 如何に集中すべきところに税金も含めた投資を集中していくのが重要（近久委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3節で、地下鉄駅周辺などで、再開発などによる民間開発や地下鉄コンコースへの接続の誘導などを重点的に進めることを打ち出す。
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークを最適化する「情報ネットワーク」が必要。SNS やコンテンツ産業などを活用して人のネットワークを広げることも重要（志済委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都心部などの無線通信環境の拡大（Wi-Fi 環境の整備）や、データセンター等の誘致を通じた本州と北海道・札幌を結ぶ基幹系通信網の整備促進などによる情報ネットワークの強化とともに、これらを活用した「市民力を活用した情報発信」や「情報発信コンテンツ・ツールの戦略的展開」、「ICT を活用した観光振興の更なる展開」などにより、人のネットワークを広げていく。（経済重点戦略へも掲載）
	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギーネットワークについては、選択・集中することや、ネットワークを強化するための制度設計などが必要（小林部会長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存の熱導管が布設されている地域への集中的な取組を進めるとともに、スマートコミュニティの形成に向けた取組など、その方向性について検討を進める。（H25 よりエネルギー基本計画とエネルギーの長期構想の策定を進める）
	<ul style="list-style-type: none"> ● 都心のエネルギーネットワークへの接続などを誘導するためには、インセンティブと同時に規制も考える必要がある。（村木専門委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都心部のエネルギーネットワークを強化するための施策の検討をH25 より進める。
都市基盤・防災力	<ul style="list-style-type: none"> ● 「災害に強い都市」とは、単にインフラが強い都市ではなく、復元力のあるコミュニティが形成されている都市（小林部会長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重点戦略「地域」で「災害に備えた地域防災体制づくり」として「自助・共助に基づく地域の防災力強化」や「災害時要援護者等への支援体制の充実強化」を進めることとしている。
	<ul style="list-style-type: none"> ● さまざまな循環、交流が可能になる公園緑地空間を、各地に市民、企業と共につくり出すみどり豊かな都市を土台と考える（丸山委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3節の中で、主要な道路や河川の空間を生かしたみどりのネットワークの充実、既成市街地など公園の未充足地域へ歩いて行ける身近な公園の整備によるネットワーク化についての検討を進める。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市基盤の維持管理も含めたデザイン（マネジメント）も重要（田村委員） ● 作ってきた公園を如何に多角的に最大活用するか、札幌らしい機能の活用も検討すべき（小林部会長） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3節の中で、都市基盤の維持管理や市有建築物の効率的な配置、地域特性（年齢構成など）や市民ニーズに応じた公園機能の再編・再整備についての検討を進める。